

自立と共生の教育研究部会

I 研究のテーマ

『一人ひとりが主体となり、自立し、平等に生きる社会をめざすために』

～自己肯定感を高め、自立する児童・生徒を育てるための授業づくり～

II 研究テーマ設定の理由

21世紀は、「人権の世紀」と言われ、国内においても、1999年に「男女共同参画社会基本法」の策定など法律上の整備がなされた。私たちを取り巻く社会の中でも、「女性の人権の尊重」「男女平等の意識をはぐくむ」動きは、見られている。

「人権の尊重」や「男女平等の意識」を考える中で、まずは、自己理解と自己肯定感・自己有用感が大切であると考え。また、そこから他者への理解は生まれると考え。

私たちは、昨年に引き続き、性差別のない社会や男女が共に生きる社会の実現に向けて子ども達が「男らしさ・女らしさ」の固定的な枠にとらわれず、一人ひとりがそれぞれの個性に自ら気づき、自分らしさを大切にし、それぞれの存在を認め合い、自立して生きていく力をはぐくむことができるよう、本テーマを設定した。

III 研究の経過と内容

昨年度、両性の自立・平等の根幹にある、誰にも必要な「自己肯定感・自己有用感」に焦点を当てて研究を進めてきた。昨年度の研究のもとに自己肯定感・自己有用感をどう自立につなげていくかを今年度は研究テーマとして設定した。まず、上田京子先生を招いて学習会を開き、「自立と共生の教育」の歴史、また、自己肯定感・自己有用感をどう自立につなげていくかの学習を深めた。その後、同人から指導案検討の際、多くの意見が出され、生徒の実態に即した指導案をつくりあげた。指導案検討を重ね、東中の有賀先生が2年生対象に研究授業（「自分らしい生き方とは 働くって・・・（働くことについて考えを深めよう）」）をおこなった。研究授業には、研究同人が全員参加し、授業後は「職業を選ぶ中で大切にしたいことについて考えようとしているか」「他の人と交流しながら『働くことや自分らしい生き方』について自分の考えを深めようとしているか」を中心に活発な意見交換をした。

また、共通のテーマで各学校、学年・クラスの実態に合わせ授業案を作り、実践をおこなった報告がされた。各クラスとも職業についての視野を広げる基礎となる授業を行うことができたという報告がされた。

4 / 11 (火)・研究テーマ、サブテーマ、役員決定, 研究計画概要決定

5 / 15 (火)・春季教研還流報告・今後の研究の日程決定

6 / 17 (火)・学習会

(上田京子先生 自己肯定感・自己有用感をどう自立につなげていくか)

8 / 7 (木)・有賀先生の略案提案

8 / 20 (水)・学校ごとの合同指導案検討

9 / 4 (木)・有賀先生の最終指導案検討

各学校で授業実践 (10 / 2までに)

10 / 2 (木)・研究授業 (有賀 恵先生 東中) 研究会

・各学校ごとの授業報告 (県教研レポート作成準備)

11 / 4 (火)・県教研報告

1 / 27 日 (火)・反省とまとめ

授業研究指導案 学級活動指導案「自分らしい生き方とは」

働くって・・・(働くことについて考えを深めよう)

○本時のねらい

・職業選びの条件などから、働くことの意義を考え、望ましい勤労観・職業関係性の基礎を養う。

○展開

【導入】 1. 職場体験を振り返る。

2. 本時のテーマを確認する。

〔「生きること」将来「働くこと」について考える。〕

【展開】 3. 将来の職業を選ぶときに大切にしたいことを考える。

4. 友達と意見を交流し、自分の考えを深める。

【まとめ】 5. 本時の感想をワークシートに記入する。

○評価の観点

・【関心・意欲・態度】

働くことの意義や職業選びのための様々な価値基準について考えようとする。

・【試行・判断】

職業選択の様々な価値基準について、自分の考えを持ち、友達との交流を通して、深めることができる。

IV 研究の反省と課題

1. テーマについて

昨年度のテーマを継続しながら今年度は「自立」という言葉を取り入れ、部会の目標につながられた。

2. 学習会について

早い段階で学習会を持てたことで、これまでの研究の経過や現状の課題などの共通理解ができよかった。

3. 研究授業案・一校一実践

今年度は、東中学校の2年生で研究授業を行った。研究授業までに総合、道徳、学活などを系統立てながら学習につなげており、さらには、夏休みに行われた「職業体験」をもとに自立に向けた心構えや意識を深めるために有効な授業であったと思う。また、授業の中で、普段は、自分の考えを発表することが苦手な生徒が、この授業の中で友達と意見を交流する姿があり、また、それを受け入れようとする生徒達の姿もみられ、温かい雰囲気が感じられた。

また、小学校の先生方からは、普段参観することがない中学生の様子を見ることができ、参考になったという感想も多かった。特に中学生が将来の職業について、前向きに考える姿や意欲的に学習する姿に感心したという意見も多くあった。この先の進路選択につながって欲しいという意見もあった。

中学校で行ったテーマや目標・実践内容をそれぞれの発達段階に応じ、小学校では、どのように展開できるのかを考え、取り入れ、実践することができた。

4. その他

・昨年度の反省で、「自己有用感だけで終わらず、自立をめざした取り組みにつなげていくことが、今後の大きな課題である。」とあったなかで、今年度はそれを受け、「自立」をテーマに取り入れて、実践を行ったことは、大きな成果であったいえると思う。

・昨年度と部員が入れ替わっても研究の継続ができ、また、今年度は小学校・中学校で交流ができて大変有意義な研究ができた。

・一つの指導案をみんなで研究し、つくり上げることができたと思う。

・来年度も「自己肯定感」「自立」をテーマにし、さらに深めていけたらよいと思うが、全国では「性の多様性」というテーマが主である。この部会のテーマの方向性も考えていかなければいけないのか、心配なところである。

・授業研究のための資料や文献が少ないことが課題である。そのためにも、来年も全国の情勢に詳しい上田先生に学習会をお願いしたい。